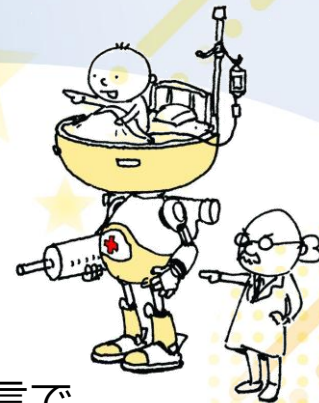


小児がんセンターたより

小児がん医療とAI



昨今、世の中はAIの話題ばかりです。以前この巻頭言でChatGPTなどの生成AIによる情報収集のことを書きましたが、AI自体はこれから医療をどのように変えていくのでしょうか。例えばレントゲン写真をAIが読んで異常を指摘することはできそうです。確かにこれがあれば、放射線科専門医ではない医師がレントゲン写真やMRI画像を読影しても、「見落とし」が少なくなることが期待できます。もっとも、先週出席した放射線科の学会では、熟練の放射線科医の診断にはまだまだAIは及ばないとの結果でした。

また、患者さんの症状（問診表）からAIが診断名を予想する、などもありそうです。可能性のある診断名の選択肢が増え、誤診が減るかもしれません。

ただ、いずれの場合も放射線科医がAIの結果も参考にして最終判断をする、内科医・小児科医が聴診や触診など診察をしてAIの結果を加えて診断する、というプロセスはまだまだ必要です。放射線科医や内科医の失職を危惧する声も聞こえてきますが、そんなことはないでしょう。

AIはこれから医療を大きく変えていくでしょう。しかし少なくとも当面は、AIが医師に代わるのではなく、医師がAIを上手に使う時代になっていくのだと思います。

「大昔は『医師』っていう職業があったんだって」という時代はまだまだ先のようなようです。

今年で9回目！ 小児がん啓発イベント



チームKCMC！！
おそろいのハッピーを作成しました



フットサル教室
後藤医務監もはりきって
こども達に教えていました！



横浜市メタバース交流企画
現地の様子を入院中のこども達に
みせていただきました！
横浜市がん・疾病対策課HPより

2月15日の国際小児がんデーにちなんだ小児がん啓発イベントは、コロナ禍の時は一時中止となり、2021年度は特設ホームページ、2022年度はオンラインイベント、そして2023年度から現地開催を復活しました。内容は毎年少しずつ変えながらも、たくさんの人に楽しんでもらうことができています。この体験から、もっと小児がんのことを知ってもらう機会となることを祈り、毎年開催していきたいと思います。来年は開催場所を変更し京急杉田駅前からお届けする予定です。お楽しみに！！



応援の花を咲かせよう！
見に来てくれた方々による**380枚**の応援の花シールが貼られました



小児がん相談支援室 情報コーナー



～夢をかなえるお手伝い～

神奈川県立こども医療センターには、ボランティアの方々のご協力で、たくさんの著名なスポーツ選手やタレントの方などの訪問があり、こども達を笑顔にしてくださる場面があります。そのような活動のほかに、小児がんなど、長期の療養生活や難病のこども達に、夢をかなえてくれるプロジェクト※があるのをご存じでしょうか？

それぞれの支援団体の活動を聞き、こども達やご家族のニーズがあるときに、私たちは情報提供を行っています。これまでも、「家族と旅行に行きたい」「テーマパークに行きたい」「好きなキャラクターに会いたい」などの願いをお伺いし、支援団体との細かい連絡調整などをお手伝いしてきました。大変な治療や入院生活を経験してきた小児がんのこどもたちが、頑張ってきたご褒美に、笑顔になれる時間が持てるよう、これからもお手伝いしていきたいと思っています。

※Make A Wish Japan

※ジャパンハート

スマイルスマイルプロジェクト

※難病の子どもとその家族へ夢を など

NEWS！！

小児がんの子どもたちへの
支援型自動販売機が設置されました



*JCCG:日本小児がん研究グループによる支援型自動販売機
売り上げの一部が小児がんの治療や研究に役立てられます

小児がんセンターより 研修会などのお知らせ

●神奈川県小児がん従事者研修

「脳腫瘍」2026/7/21

「感染症の予防と治療」9/15

「小児がんの相談支援」10/13

「AYA世代の支援」12/11

※詳しくは、小児がんセンターHPをご確認ください

小児がんに関連したご相談は
「小児がん相談支援室」

(本館1階7番窓口)までご連絡ください

時間: 平日(月～金) 8:30～17:00

相談方法: 面談・電話・メール

電話: 045-711-2351 (代)

✉ shounigan.1591@kanagawa-pho.jp

各部門からのお知らせ

～言語聴覚科～

言語聴覚科は施設・リハビリ棟2階にあり、6名の言語聴覚士が在籍しています。ことばの遅れや発音の問題、吃音、難聴、口蓋裂など様々な言語聴覚障害に対して評価や訓練、保護者支援などを行っています。他に、耳鼻科外来での聴力検査、新生児聴覚スクリーニング検査なども行っています。

当科では小児がんのお子さんに対して、聞こえの問題や脳腫瘍などによることばの問題への支援を入院中から退院後まで行います。

がんの治療に使用する薬剤の中には、副作用として難聴、特に高い音の聞こえが悪くなるものがあります。高い音には日本語の子音が含まれます。ことばを獲得している途中のお子さんが高い音を十分に聞き取れないと言語発達、発音に影響する可能性があります。当科では小さなお子さんでも楽しく行えるように工夫しながら聴力を検査し、必要に応じて耳鼻科医と連携して補聴器装用指導を行います。

脳腫瘍のお子さんでは、合併症や後遺症として失語症、無言症、構音障害などのことばの問題を生じることがあります。当科では話す、聴く、読む、書くことや発音を評価し、必要時訓練を行います。検査や訓練はお子さんの体調を見ながら、ベッドサイドや言語聴覚科の訓練室で個別で行います。お子さん一人ひとりに適した教材を選択し、ゲーム要素を取り入れたりごほうびを工夫しながら、お子さんが楽しくリハビリを行えるように心がけています。

退院後も必要に応じて地域の療育センターや幼稚園、保育園、学校と連携しお子さんにとって過ごしやすい環境作りを支援します。

お子さんご家族のコミュニケーションへの不安が軽減されるように、他職種と連携しながら支援を行っていききたいと思います。



言語聴覚科 佐藤麻友子



地方独立行政法人 神奈川県立病院機構

神奈川県立

こども医療センター

Kanagawa Children's Medical Center

【発行元】

神奈川県立こども医療センター小児がんセンター

〒232-8555 神奈川県横浜市南区六ツ川 2-138-4

TEL: 045-711-2351 (代)

Email: shounigan.1591@kanagawa-pho.jp